

出張講義のお申込みについて

安田女子大学薬学部は、高校生の皆さんのためにいろいろな出張講義（無料）を用意しています。

出張講義のお申込みは、次頁の申込書の必要事項をご明記の上、入試広報課まで FAX あるいは e メール（下記参照）でお申込みください。

本学の授業や大学行事のため、ご希望の日時にご対応できない場合がありますが、その際にご相談させていただきます。

お申込み・お問い合わせ先： 安田女子大学 入試広報課
〒731-0153 広島市安佐南区安東 6-13-1
FAX：082-878-9921
TEL：082-878-8557(入試広報課直通)
E-mail：nyushi.box@yasuda-u.ac.jp

無料 安田女子大学薬学部 出張講義 申込書

学校名： 高等学校

受講予定者： 3年生 名
2年生 名
1年生 名

希望日時： 年 月 日 (曜日)
時 分 - 時 分

希望出張講義テーマ：

第1希望 (テーマ名) _____ (教員名) _____.

第2希望 (テーマ名) _____ (教員名) _____.

第3希望 (テーマ名) _____ (教員名) _____.

連絡先：

ご担当者名 (役職)

所在地 〒

電話番号 FAX 番号

E-mail address

お問い合わせ先： 〒731-0153 広島市安佐南区安東 6-13-1

安田女子大学 入試広報課

FAX: 082-878-9921

E-mail: nyushi.box@yasuda-u.ac.jp

出張講義一覧

生命薬学

高校生のための薬学入門～薬と受容体～

多細胞生物では細胞同士がコミュニケーションをとっており、多様な受容体がアンテナの役割を果たしています。薬は体がもっている働きを強めたり弱めたりする化学物質ですが、多くの薬は受容体の働きを調節する作用を持っています。本講義では薬の作用に関係する受容体について分かりやすく解説します。

講義担当者

教授 赤木 玲子（あかぎ れいこ）

専門分野

生化学、分子生物学、病態生化学、分子薬理学

食用油の効能

私達が日ごろ食する油脂は、体内でどのような働きをしているのでしょうか。植物油、動物油や魚油の成分の違いを説明し、生活習慣病の予防への効能を易しく解説します。

講義担当者

教授 徳村 彰（とくむら あきら）

専門分野

衛生薬学、脂質生化学、食品機能学

心臓病と心肺蘇生 自分の健康と身近な人の命を守る

心筋梗塞は病院に運ばれる前に多くの人が命を落とすとされています。この講義では公共の場でも普及している AED の使い方や心肺蘇生法について解説します。また、心筋梗塞の予防について薬の治療も含めた話題を紹介します。

講義担当者

教授 山本 秀也（やまもと ひでや）

専門分野

内科学、循環器病学

アルツハイマー病 その発症メカニズム・症状・治療法について

アルツハイマー病は、高齢者に多い神経変性疾患で、65 歳以上の有病率は 1～3 %です。おもな症状は記憶障害で、失語などの障害が徐々に進行し、最後は寝たきりになります。アルツハイマー病の発症メカニズム、症状、および治療法について紹介します。

講義担当者

准教授 近藤 慎一（こんどう しんいち）

専門分野

細胞生物学、神経科学、薬理学

人類共通の敵『がん』にどう戦っていくか

現在、二人に一人ががんにかかり、三人に一人ががんで亡くなります。医療の進歩をもってしても、なぜ、がんはこれほど怖い病気なのでしょう。本講義では、がんはどのように発生するのか、どのように治療するのかなどについて解説します。

講義担当者
准教授 加藤 貴史（かとう たかし）
専門分野
細胞生物学、分子生物学、がん生物学

未来の薬 遺伝子医薬

現在、副作用の伴わない抗癌剤治療は存在しません。“遺伝子医薬”は、特定の遺伝子にのみ作用することができる副作用がない“夢の医薬”として期待されています。本講義では、未来の薬 “遺伝子医薬”の種類、歴史的背景、現状などについて紹介します。

講義担当者
講師 久保 貴紀（くぼ たかのり）
専門分野
核酸化学、生体機能化学

ひとはなぜ太るのか 代謝と病気

肥満はさまざまな病気に関係しています。肥満が具体的にどのように身体にダメージを与えているのか、関連のあるトピックもまじえてわかりやすく解説します。

講義担当者
講師 田中 亜路（たなか あろう）
専門分野
細胞生化学、癌生物学、栄養学

甘くない糖のはなし

われわれの身体の中には、ブドウ糖などの単糖が連結された糖鎖が存在します。糖鎖は、核酸、タンパク質に次ぐ第3の生命鎖として知られ、様々な生命現象の調節に役立っています。本講義では、糖鎖のもつ機能について、病気などの話題も交えながら紹介します。

講義担当者
講師 平野 真（ひらの まこと）
専門分野
生化学、ケミカルバイオロジー、糖鎖生物学、腎臓生理学

創薬学

薬学と化学（日本人の発見した医薬品）

薬学における化学の重要性に触れたのち、日本人が発見した 12 の医薬品について歴史的、社会的観点から紹介します。日本人が生み出した薬に関するエピソードを通じ、次世代を担う若い人が化学と薬学に興味を持つだけでなく、みずから挑戦して未来を拓く気概を抱いてくれればと思います。

講義担当者
教授 生中 雅也（いくなか まさや）
専門分野
有機合成化学、創薬化学、プロセス化学

薬学の原点・薬用植物 身近な植物も薬となります

紀元前より植物は薬として使われてきました。病気になり、困ったときに癒してくれたのは植物でした。その頃、どのような薬効成分が入っているかは分かりませんでしたが、効くことは事実でした。何が効いているのか、何か生活に役立つ成分が入っているのか、現代科学が解き明かしてくれます。

講義担当者
教授 大塚 英昭（おおつか ひであき）
専門分野
天然物有機化学

病気と薬の化学

私たちは病気になったらまず薬を服用します。薬はどのように病気を治すのでしょうか。体の中の生体分子と反応しているのでしょうか。薬がどのようにして効き目を発揮するのか、体の仕組みと合わせて化学の視点から説明します。

講義担当者
教授 大山 義彦（おおやま よしひこ）
専門分野
有機化学、生体分子構造化学

くすりを開発する 医薬品開発物語

皆さんが日頃、何気なく、使用している「くすり」は、臨床現場で使用できるまで、膨大な開発費と 10 年を超える年月がかかっています。くすりは、どのように開発されるか、製薬メーカー開発研究部門に長年在籍した経験を持つ演者が分かり易く説明します。

講義担当者
教授 西 博行（にし ひろゆき）
専門分野
生体分析化学、薬品分析化学

抗生物質の発見 感染症治療の夜明け

抗生物質とは何か、抗生物質が病原菌に作用する仕組み、薬剤耐性菌出現の問題など、抗生物質に関する内容を分かり易く解説します。また、抗生物質に代わる新たな抗菌因子として注目されているバクテリオシンやバクテリオファージについて紹介します。

講義担当者

教授 西村 基弘（にしむら もとひろ）

専門分野

微生物機能の開発とその利用に関する基礎的研究

自然界にある毒と薬 身近にいる刺客と守護神

毒の利用は人類誕生とともに始まったと言われ、現在でも自然界には様々な毒が身近に存在しています。一方で多くの医薬品のルーツが自然毒でもあります。本講義では、天然物由来の毒や薬について歴史的背景、エピソードをまじえて紹介します。

講義担当者

教授 稲垣 昌宣（いながき まさのり）

専門分野

天然物化学、分析化学

タンパク質の構造を創薬に活かす

薬の多くは特異的なタンパク質と結合することで、その効果を発揮します。自然界から偶然見いだされたものが薬となることもあります。特定のタンパク質に結合するように合理的に設計された薬も開発されはじめています。本講義では、タンパク質の三次元構造をもとに開発された薬剤について紹介します。

講義担当者

准教授 的場 康幸（まとば やすゆき）

専門分野

タンパク質の三次元構造に基づく創薬研究

漢方薬と天然物化学

漢方薬は生薬といういわゆる薬草を複数種混ぜ合わせた薬です。そのため、何が効いているのか胡散臭く思われてしまうこともしばしばあります。ここでは、そのモヤモヤを研究エピソードなどを交えながら晴らしていきます。

講義担当者

助教 川上 晋（かわかみ すすむ）

専門分野

天然物（植物、動物等）由来の有用化合物の探索

肥満を防ぐための研究

近年では肥満や糖尿病などの生活習慣病の増加が全世界に広がり、それを防ぐための研究も活発に行われています。肥満を防ぐための研究を例にあげますと、肥満モデルラットを利用したり、脂肪酸を燃やす働きを高める薬を開発し、その効果を確認したりと様々なものがあります。本講義では、その研究の一部や自身の研究エピソードを紹介し、分かりやすく解説します。

講義担当者

助教 川畑 公平 (かわばた こうへい)

専門分野

脂質栄養学、毒性学

医療薬学

からだの不思議

人間のからだは神秘に満ちたマイクロコスモス（小宇宙）です。皆さんの体の中にある命の誕生から生物の進化、自然が創り出した最高の仕組みについて、医学・医療のトピックスを交えわかりやすく紹介します。「健康」と「いのち」の大切さを理解してください。希望される体の部分をリクエストしてください。

講義担当者

教授 田中 丈夫 (たなか たけお)

専門分野

小児科学、腫瘍遺伝学、分子生物学

口腔ケアと健康長寿

口の中を清潔に保つという基本的な口腔ケアが、糖尿病、腎臓病、心筋梗塞さらには認知症などの全身の疾患を改善することが分かってきています。高齢者では死亡率が高い誤嚥性肺炎も、口腔ケアを継続的に行うことで発症率が減少しています。最近、在宅患者の服薬指導に加え薬剤師による口腔ケアが注目されています。口腔ケアの重要性を解説し、薬剤師としてできる口腔ケアについて考察します。

講義担当者

教授 中西 博 (なかにし ひろし)

専門分野

ミクログリアの生理的・病態的役割に関する薬理学的研究

骨を守る

骨は思春期までは、成長し、その後も、骨吸収と形成を繰り返して骨を維持しています。そのバランスが崩れた時に骨粗鬆症となり骨折を起こし、高齢者の生活の質を落とすため問題になっています。今からできる骨を守る生活習慣や骨粗鬆症治療の最前線をわかりやすくお話します。

講義担当者

教授 藤原 佐枝子 (ふじわら さえこ)

専門分野

予防医学、疫学、骨粗鬆症

ウイルスの話 ウイルスとはなんなのか？

ウイルスとはなんなのか、どのようにして病気を引き起こすのか、ヒトはどのようにして対抗しているのかを分かり易く説明します。また、現在問題となっている様々なウイルス感染症の流行についても分かり易く解説します。

講義担当者

教授 森本 金次郎 (もりもと きんじろう)

専門分野

免疫学、病態生理学

実験の失敗から新しい製剤を発明する方法～マイクロスフェア製剤と消化管貼り付け製剤～

私は昔、製薬会社で新しい製剤を創る研究をしていました。ある時、実験を失敗し、全く予想しなかった結果を前に途方に暮れていました。そんな時、ある先輩がふらっと立ち寄り「これは、ヒョッとすると大発明につながるぞ」とのこと。その後、どこの製薬会社も失敗していた安全性の高い溶媒で完璧なマイクロスフェア製剤を作る画期的な新手法を開発し、特許取得につながった顛末をお話したいと思います。

講義担当者

准教授 北澤 健生 (きたざわ たけお)

専門分野

生物薬剤学 (薬物動態学)、物理薬剤学 (製剤学)

ウイルス感染症のお話

将来人類の脅威となり得る強毒性インフルエンザウイルスの問題や、未だにワクチンの開発されていない HIV など様々なウイルスの感染症について分かり易く解説します。

講義担当者

准教授 佐藤 雄一郎 (さとう ゆういちろう)

専門分野

生化学、糖鎖生物学

身体の中を流れる金属イオンとイオン輸送体標的薬

身体の中にはナトリウムやカルシウムを始めとした色々な種類のイオンが流れています。その流れが止まったり、欠乏したりすることで、体内代謝や運動機能は大きな影響を受けます。これは様々な病気の原因となる一方で、影響を逆手にとった薬を使って心臓病などの治療に役立てることもできます。

講義担当者

講師 羽鳥 勇太 (はとり ゆうた)

専門分野

生化学、分子生物学、細胞生物学

食べる細胞の話

私たちの体には、食べる細胞がいます。体の中にできた有害な細胞、外から侵入した病原性微生物などを食べて除き、私たちの体を健康に保ってくれるお掃除上手な細胞です。そんな食べる細胞についてわかりやすく解説し、この細胞を使った薬の開発方法について考察します。

講義担当者

講師 野中 さおり (のなか さおり)

専門分野

生化学、分子生物学、免疫学

培養できない微生物

環境中の微生物はほとんど培養できません。150 年前にコッホさんが寒天でうっかり上手に微生物を生やしちゃったばかりに、私たちは騙されていた！なんと、病原菌(バイキン)も自然環境にいと、生きているけど培養できなくなったりするのです。では、どうやって環境中の微生物は増えているのでしょうか？気になりませんか？

講義担当者

助教 村上 千穂 (むらかみ ちほ)

専門分野

微生物の増殖制御機構の解明、分子生物学、酵素科学

臨床薬学

正しい薬の使い方（眼が点にならないように）

くすりは正しい使い方をしないと効果がないばかりか毒にもなり得ます。なぜくすりは決められた量を、決められた回数、決められた方法で使わなければならないか分かり易く説明します。

講義担当者
教授 新井 茂昭（あらい しげあき）
専門分野
臨床薬剤学、医療品情報学

飲んだ薬は、どうなってしまうのでしょうか？

疾患の治療には薬による治療が広く行われています。薬剤師はこの薬物治療の開始から終了まで有効性・安全性に対する管理に責任を持って関わっていく必要があります。薬剤師がどのように薬物治療管理に関わっているのか、またこのことに関して薬学生が何を学んでいるのか紹介します。

講義担当者
教授 木村 康浩（きむら やすひろ）
専門分野
医療薬学、臨床薬剤学

社会で活躍する薬剤師

病院、薬局ではもちろんのこと、皆さんの知らない場所で薬剤師は色々な活動を通じて、皆さんの健康を守るために貢献しています。一般的な薬剤業務と合わせて、知られざる薬剤師像を紹介いたします。

講義担当者
教授 形部 宏文（ぎょうぶ ひろふみ）
専門分野
臨床薬剤学、日本薬局方

医薬分業がもたらした病院薬剤師の仕事

医薬分業（薬の処方と調剤を分離し、それぞれ医師、薬剤師が分担して行うこと）があたり前の時代に入りました。医薬分業により、病院に勤務する薬剤師（病院薬剤師）の業務が大きく変わり、病院、地域も変わろうとしています。35 年以上、病院に勤務した演者がこれからの病院薬剤師の仕事について紹介します。

講義担当者
教授 高畑 英信（たかはた ひでのぶ）
専門分野
医療薬学、医療経済、臨床薬剤師

ジェネリック医薬品（後発医薬品）は使っても大丈夫？

医薬品は大きく分けると医療用医薬品（医師から処方されるお薬）と一般用医薬品（薬局等の店舗で販売されるお薬）に分類され、医療用医薬品は更に新薬（先発医薬品）とジェネリック医薬品（後発医薬品）に分類されます。最近、テレビ CM でも宣伝されているジェネリック医薬品について、承認される過程も踏まえて、その特徴と使用する意義について分かり易く紹介します。

講義担当者

教授 二五田 基文（にごた もとふみ）

専門分野

臨床薬剤学、薬事関係法規、薬剤管理学

薬局薬剤師の仕事

調剤薬局やドラッグストア等、薬局で働く薬剤師は多くいます。処方せんとお薬手帳を受け取った薬剤師が調剤室の中で何をしているのか、店頭で健康相談を受けた薬剤師が何を考えて薬を選ぶのか、更に在宅医療や地域活動等、薬局の建物から飛び出して活躍する薬剤師の姿を、実例を交えて紹介します。

講義担当者

講師 谷 雅子（たに まさこ）

専門分野

保険薬局実務